騒音・粉塵・風害…生活被害急増

瓦版にゅうす
第36号

町田市民が守り育ててきたみどり豊かな住環境を根底から揺さぶり続けている長谷工マンション。建築現場の周辺はもちろん、現場につながる道路や、現場など見えない遠く離れたところでも工事の騒音や電波障害、コンクリートの粉塵、今までにない巻き上げるような突風などの生活被害が報告されています。１０１人の原告団は建築阻止に向け、自然環境破壊、交通渋滞、騒音・振動、風害などあらゆる分野での「実害」の証拠を集め、裁判所に説得力を持って提出するためのまとめに入りました。

騒音、基準値を大幅越え

「油煙」「コンクリ雲」で健康悪化も

対策協議会が専門家の協力を得て調査した結果では，行政指導を守らずに強行に工事を続けている長谷工の工事車両は、最大で９５ｄＢ（デシベル）の騒音を出していました。人が「うるさい」と感じたり、「イライラする」など精神的に苦痛を感じる限界は住宅地で５０ｄＢとされています。小田急線ガード下での電車通過時の数値が７０ｄＢにすぎないことからすると、９５という値がいかに高いかがわかります。

騒音と同様に地鳴りのような振動、重量物積載による発進時の猛烈な油煙も確認されており、実際に喘息の悪化に苦しむ人もいることから、学園や南大谷、成瀬住民の健康被害が懸念されています。

さらに、工事現場からは騒音に加え「コンクリ雲」とも呼ぶべきコンクリートの削りカスの帯が頻繁に流出しており、協議会では実態を把握するよう行政に強く申し入れるとともに、地域に住む人の健康な暮らしを守るため、あらゆる手段でこのような工事を中止させるべく対策を講じていくことにしています。

裁判サポーター大募集

高精度の証拠集めを！

「玉川学園の巨大マンションに反対する原告団」では、被害の実態を正確に記録するため、各分野の専門の研究者などから献身的な協力を得て調査に当たってきました。しかし、データの解析や分析へのコメント依頼など、裁判所を説得するために、より客観的な証拠集めが急務で、調査方法や実験の規模によっては数百万の経費がかかることが見込まれています。

原告団では志を同じくする方から、一口千円からの寄付をお待ちしています。皆様のご協力をお願い申し上げます。

（振込先は下記）

生態系に早くもダメージ顕在化

学園～成瀬　スズメやヤモリ大発生　網戸になぞの付着物

「今年はウグイスの声を聞かないねぇ」。春先に地域のあちこちで交わされた言葉です。その後、「減った」とされるものは、カッコウ、コウモリ。増えた！と思われるものは、スズメ、ヤモリ、アリ、網戸にはなぞの白い糸状の付着物が…。

玉川学園から、かしの木山自然公園に続く尾根道では、今まで人前に姿を現さなかったアオダイショウやアカカガシなどのヘビが目撃されるようになっています。

生態系の異変がすでに進行していることの現れなのでしょう。人がその身に痛みを覚えてから騒いでも手遅れであることの警告かもしれません。

ナイス営業大苦戦「販売開始」三転・四転

依然、契約数「ゼロ」

裁判付き、紛争付きの物件を５８８戸も売りさばかねばならないナイスは、モデルルーム開設当初５月下旬としていた販売開始を二転、三転と遅らせ、現在９月末にまで延長して「プレ」販売活動に精を出しています。来訪者にアンケートを書かせ、脈のある客には「仮登録」と称して希望の部屋を指定させて契約の時まで心離れしないよう営業を続ける作戦。しかし、三文判も押さなくていい程度の仮登録でさえ名前を書いた客は５カ月でわずか６０人程と見られ、週末でも数えるほどしか訪れない状況から、広告営業に反比例して客足は遠のいている様子です。

モデルルーム前では、対策協議会が一連の出来事や、町田の残すべき自然環境を紹介する写真展を開催し、道行く人やモデルルームから不安げに帰ってゆく人に現実を説明する活動を続けています。

売れないことを自ら実感しつつ、建築主として資材費を何億と払わねばならぬナイス。８月からは、雇いあげていた現地送迎バスを手放すなど、経費削減に懸命です。

「工事妨害」損賠訴訟

長谷工敗訴

和解拒否で取り下げ

昨年６月の着工未遂にかかわる市民の抗議行動に長谷工が起こしていた損害賠償裁判で、長谷工は裁判継続を断念、住民側勝利となりました。

長谷工は、現場にはいなかった別の住民を名字が一緒だからと訴えたり、住民側の「不法性」の根拠を裁判官に説得力を持って示せなかったりと、住民に脅しをかけることのみが目的の裁判と思われるほどのずさんさを露呈。挙げ句の果てに和解を要求し、被告の住民側が一蹴すると最後は自ら取り下げ、訴訟第１ラウンドは住民側の圧勝となりました。

「住民の正当な抗議行動は損害賠償の要件を満たさず。」このことが司法の場で認められた意味は大きいと言えます。

尾根道讃歌

この紛争マンションの宣伝は狛江などでも新聞折り込み広告で展開されている。知人は最初見た時「８０㎡３千５００万円で送迎バスなんて素敵。」と思ったそうだ。遠くの人には裏が見えない。▼管理費、修繕費等で月に３万円払い、３年後には金額の見直し。売れ残っている場合のサービスの廃止や管理費の値上げは、規模が大きいだけに計り知れない。▼渋滞など起きない！と豪語しながら渋滞回避のために送迎バスを用意するというから二枚舌も甚だしい。駅北口に着ける計画にもかかわらず、ビラでは南口と宣伝。小田急をくぐり南大谷交差点を経て駅まで８分だそうだ。信じるものは足をすくわれる。▼裁判所、原町田、現場と、あらゆる場面で工事を止めるため頑張らねばならない。自分たちの町は，自分たちで守っていくしかない。

編集・発行　旧日本ＩＢＭグランド跡地対策協議会
ホームページ　http://taisaku.holy.jp/
事務局　玉川学園町内会　042-725-0438
原告団口座　「玉川学園の巨大マンションに反対する原告団」
都民銀行・玉川学園支店　普通　4073975
城南信用金庫・玉川学園支店　普通　120056